

しょうがっこうをおくる会様

Plan Japan

プラン特別プロジェクト
ネパールにおける教育支援プロジェクト
完了報告書



ネパールの子どもたち

公益財団法人プラン・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル11F
www.plan-japan.org

ファンドレイジング部 平田 泉 TEL:03-5481

-7100/FAX:03-5481-6200

Email: hirata@plan-japan.org

2015年3月

しょうがっこうをおくる会様

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は、国際 NGO プランの活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ご支援いただきましたネパールにおける教育支援プロジェクトが完了いたしましたので、ここにご報告申し上げますとともに、深くお礼申し上げます。

今回の貴重なご支援により、子どもたちのより良い未来の実現に、大きく一步近づくことができました。これからもプランは、皆様からのご支援によって、途上国の子どもたちとともに地域開発を進めて参ります。

賜りましたご寄付に今一度感謝申し上げますとともに、今後とも末永くプランの活動にご参加いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

敬具

公益財団法人プラン・ジャパン

事務局長

佐藤 活朗

■ プロジェクトの背景・概要

プランは 1978 年にネパールでの活動を開始して以来、首都カトマンズにある国統括事務所と 6 つの現地事務所を拠点として、多岐にわたる地域開発プロジェクトを住民参加のもとで実施しています。



	ネパール	日本
人口	2,779 万人	12,714 万人
5 歳未満児死亡率(1,000 人当たり)(人)	40	6
改善された水源を利用する人の比率(%)	88	100
1 人当たりの GNI(国民総所得)(米ドル)	730	46,140
1 日 1.25 米ドル未満で暮らす人の比率(%)	25	—
小学校の就学率(%)	98	100
小学校に入学した生徒が最終学年まで残る率(%)	95	—

(「ユニセフ世界子供白書 2015」より)

ネパール東部に位置するシンドゥリ郡は、面積 2,491 平方キロメートル、人口は 294,621 人(58,270 世帯)で、郡都カマラマイ市および最小行政単位である村落開発委員会 53 委員会から構成されています。地形は北部が山岳地帯、中央部が丘陵地帯、南部は平野部になっています。主たる住民はマジス族およびダヌワール族で、河川での漁業が主な生計手段です。伝統的な価値観が根強く、またアクセスが難しい遠隔地域であるため、開発は遅れており、教育、保健、環境、生活などさまざまな面で問題を抱えています。なかでも教育の問題は深刻です。

カマラマイ市には、40 校以上の公立学校があるものの、そのうち質の高い教育を提供している学校は数校しかありません。カマラマイ市第 7 区にあるシュリー・カリカ学校には、社会的・経済的に

困難な状況下に置かれた人々が暮らすコミュニティの、幼稚園から前期中学校*までの子どもたち 241 人が通っています。同校に備わっている 9 教室のうち 5 教室は、1986 年に建設された老朽化が著しい木造の校舎にありました。これらの教室には、十分な備品や教材・図書が備わっておらず、子どもにやさしい学習環境を提供できていませんでした。また、天候の影響を大きく受ける劣悪な学習環境の中、低学年の児童たちは、安心して授業を受けることができないため、留年をくり返したり、中途退学をする児童が跡を絶たない状況でした。

このような状況を改善し、子どもたちに安全で快適な学習環境を提供するため、このプロジェクトでは、シュリー・カリカ学校で校舎 1 階部分(4 教室)の建設と教室用備品と教材の支給、読書コーナーの設置、給水設備の設置を行いました。

■ プロジェクトの経過

プロジェクトは 2014 年 2 月に開始して以来、8 月の雨季による豪雨と、10 月のダサイン、ティハールの 2 大祭り開催のため、建設作業が中断した時期もありましたが、それ以外は概ね順調に進捗し、2015 年 1 月に以下の活動を実施して無事完了しました。

■ プロジェクトの準備

2014 年 2 月、しょうがっこうをおくる会様からのご支援決定後、プランは、コミュニティの住民たちを対象とした集会を催し、住民たちに本プロジェクトについての説明を行いました。その後、学校管理委員会や親と教師の会(PTA)、コミュニティの住民たちは、建設工事の計画策定、スケジュールや予算についての説明を受けました。続いて、建設予定地が確定しました。校舎の設計に関しては、事前に実施した子どもたちが望む理想の校舎についての絵画コンクールにおいて判明した子どもたちの希望も加味して設計図・図面を完成させました。

2014 年 3 月、プラン・ネパールと学校管理委員会の間で契約が交わされました。その後、新校舎の建設に関し郡教育事務所や村落開発委員会からも承認を得ました。

2014 年 4 月、学校管理委員会とコミュニティ住民たちが一堂に会し、学校建設委員会および分科会を結成しました。話し合いの中では、コミュニティが担う役割についても明確にされました。プランは、各委員会や教師に対し、プランのチャイルド・プロテクション・ポリシー、学校やコミュニティにおける子どもにやさしい学習環境の創出についての説明を行いました。その後、経理担当者や学

* ネパールの学校制度は、10+2(テンプラス・ツー)と呼ばれる 5・3・2・2 制で、小学校 5 年間、中学校(前期中等教育)3 年間、中期中学校 2 年間、後期中学校 2 年間から成る。

校長を対象としたプランが推奨する資材調達方法や会計システムについてのトレーニングを実施しました。

■ 建設工事

2014年5月、学校建設委員会は、建設工事を効率的に進めるために、工事における各作業をグループごとに行うことにしました。校舎建設予定地の整地を終えた後、地盤掘削、基礎工事を開始しました。また、給水設備のための取水口を建設し、配水管の敷設工事を実施しました。6月には、地元で入手可能な資材を調達し、その他の建設資材を購入しました。基礎の掘削工事が完了し、防湿施工を経て、レンガ積み上げを開始しました。また、支柱を設置するためのコンクリートの打設やドアや窓枠の設置を行いました。7月には、屋根の高さまでのレンガ積み上げが完了しました。続いて、堰板設置、教室の床スラブの設置を開始、8月中旬に完了しました。その後、雨季による豪雨のために、建設作業は一時中断しました。

9月に入り、ドアと窓の設置が完了した後、外壁の漆喰塗装とペンキ塗装を開始しました。10月中は、ネパール2大祭り(ダサイン、ティハール)が開催されたため、労働力の確保が難しく建設作業が再度中断しました。

11月～12月にかけて、教室内部壁面の漆喰塗装とペンキ塗装が完了した後、各教室の壁面に低学年向けの読み方練習用の絵と文字、児童や教師、学校管理委員会が守るべき行動規範を描きました。また、各教室に、読書コーナーを設けるとともに、子どもにやさしいスペースとして、子どもたちが座って過ごせるジュート織りカーペット敷きのコーナーを設置しました。同月中旬に給水設備の設置も完了しました。

2015年1月、予定していた作業を全て終え、シュリー・カリカ学校の校舎1階部分(4教室)が完成しました。

工事期間中は、技術者とプラン職員、学校建設委員会が定期的に建設現場を訪れ、工事が一定の品質を保って順調に進捗していることを確認しました。

※ 同校舎2階の5教室については、学校管理委員会、親と教師の会(PTA)、シュリー・カリカ学校の保護者と教師が共同で拠出した資金により建設工事が実施されました。

■ 落成式

2015年2月5日、シュリー・カリカ学校新校舎の落成式が、しょうがっこうをおくる会 岡村様、三浦様ご参列のもと盛大に執り行われました。式典には、同校の子どもたちや教師、保護者の他に、

郡教育事務所行政官や近隣校の代表者、地元自治体のリーダーや NGO 関係者など総勢 500 人の人々が参加しました。校長や学校管理委員会代表といったプロジェクト関係者らによるスピーチの中では、本プロジェクトをご支援くださった、しょうがっこうをおくる会様に対する謝辞が述べられるとともに、完成した校舎を次世代の子どもたちのために適切に維持管理していくことが宣言されました。また、前期中学校の生徒たちによる国歌斉唱が行われ、民族舞踊が披露されました。式典の中で、岡村様、三浦様より、同校の子どもたちに記念品が贈呈されました。

■ プロジェクトの成果

■ 学習環境の改善による就学率、在籍率の向上

シュリー・カリカ学校に、新たな4 教室が完成したことにより、本校に通う幼稚園～小学校3 年生の子どもたち 93 人が、子どもにやさしい学習環境で学ぶことができるようになりました。各教室に、児童の年齢に合った適切な備品や図書が備えられ、壁面に子どもの嗜好に合った絵や役に立つことわざや格言が描かれたことで、低学年の子どもたちの知的好奇心を高めるような効果的な働きかけが可能となり、子どもたちの就学率、在籍率の向上が期待できます。

【1 階の 4 教室を使用する児童数】

学年	女子(人)	男子(人)	合計(人)
幼稚園	10	7	17
小学校 1 年生	10	18	28
小学校 2 年生	12	10	22
小学校 3 年生	14	12	26
合計	46	47	93

また、校舎のそばに給水設備が設置されたことにより、子どもたちはいつでも容易に安全で清潔な水を手に入れることが可能となりました。

ネパール政府は、各村落開発委員会における不就学児ゼロ、子どもの教育を受ける権利の実現を目指し、国内1,053 の村落開発委員会において初等教育の無償化政策を進めています。本プロジェクトを実施することで、社会から取り残された遠隔のコミュニティに暮らす子どもたちが適切な時期に質の高い教育を受けられるようになるため、このような政府の方針にも貢献することができます。

■ 住民参加による、地域の能力強化

プロジェクト期間中、プロジェクト委員会をはじめとする地域の人々、自治体の教育担当者、請負業者などプロジェクトに関わるすべての人々が良好な協力関係を築き、うまく役割分担をしながら

プロジェクトに積極的に参加しました。

地域の人々は、地元で入手可能な資材や熟練を要さない労働力を積極的に提供しました。また、住民たちからなる森林利用者グループは、校舎建設に必要な木材を提供しました。学校建設委員会は、定期的に建設現場を訪ね、工事がスケジュール通りに一定の品質を保って進捗していることを確認しました。これらの活動を通じ、地域の人々はプロジェクトの当事者意識を高め、プロジェクト完了後も責任を持って、プロジェクトによる成果を維持していく体制を整えました。

■ 現地の声

「シュリー・カリカ学校に新しい校舎が完成し、とても嬉しいです。特に低学年の教室には、きれいな飾りが施されているので、1年生の妹は私以上に喜んでます。妹は、色とりどりの絵が描かれた教室で授業を受けるのをとても楽しみにしています」

(ランジタ／シュリー・カリカ学校6年生生徒)

「しょうがっこうをおくる会様のご支援のおかげで、安全で快適な校舎ができたので、雨季や風の強い日でも、教室が壊れないかと心配したり、授業が中断することがなくなり、とても嬉しいです」

(ディパク／シュリー・カリカ学校7年生生徒)

「これまで、シュリー・カリカ学校の校舎は崩壊寸前の状況でした。しょうがっこうをおくる会様のご支援のおかげで、幼稚園の児童や低学年の子どもたちが長く使える丈夫な施設が完成し、とても嬉しいです。温かいご支援に心より感謝申し上げます」

(デヴィ・マヤ／学校管理委員会の女性メンバー)

「しょうがっこうをおくる会様のご支援のおかげで、子どもにやさしい恒久的施設が出来上がりました。私たち教師は、シュリー・カリカ学校がシンドゥリ郡のモデル校となるよう、子どもたちの学力の向上、および中途退学と体罰のない健全な環境づくりに尽力するつもりです。しょうがっこうをおくる会様、このような励みとなるご支援をお寄せくださり、どうもありがとうございました」

(ラム・バハデュール／シュリー・カリカ学校長)

「この度のご支援は、郡全域にある幼稚園や小学校の教育の質を改善し、就学率を高めるうえで変革をもたらす好機となりました。私は、郡内の他の学校にも、このプロジェクトに倣って学校運営を進めるように要請しました」

(ナワラジ・バラル／シンドゥリ郡教育事務所、教育参事官)

「シュリー・カリカ学校に新しく校舎が建てられたことは大きな成果です。幼稚園児や低学年の児童たちは、視覚的にも楽しく、読書コーナーもある適切な学習環境のもとで、幼いうちから勉強する習慣を身につけることができるようになります。教育の質を高めるには、教育に携わる者全員の努力が必要であり、校舎や施設はその一部でしかありません。ですから、私は今回支給された教材を有効的に活用して質の高い教育を提供するよう、同校の教師全員に呼びかけたいと思います。この度、このような素晴らしいご支援をくださいましたしょうがっこうをおくる会様に心よりお礼申し上げます」

(アナ・プラサド／シンドゥリ郡教育事務所行政官)

■ 写真





校舎入り口には、障がい児にも配慮してスロープを設置しました。



子どもたちが座って過ごすことができるよう教室の隅に設置されたカーペット敷きのコーナー



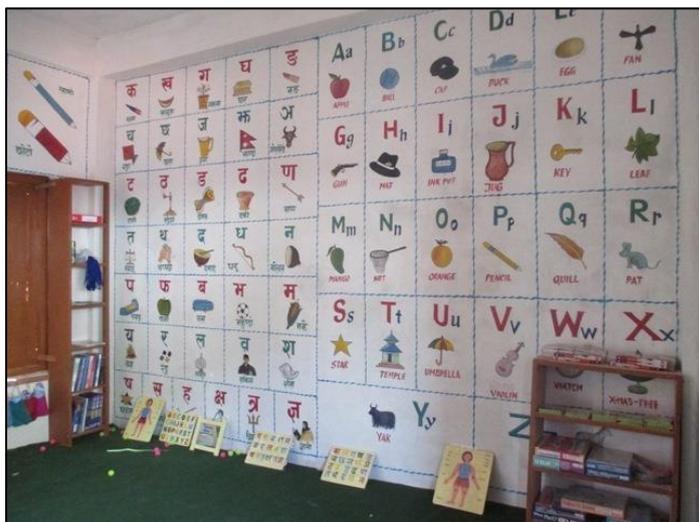
支給された各種教材



休み時間、ボードゲームに興じる子どもたち



靴箱が設置されたことで、上履きを揃えて収納する習慣がミニつきます。

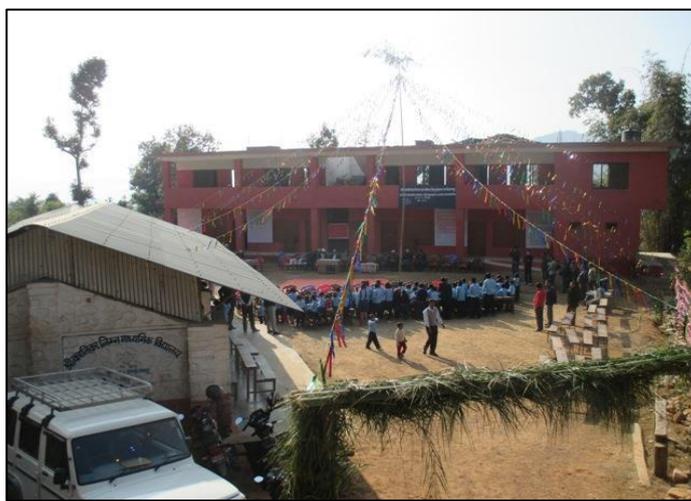


壁面に描かれた学習用の絵を活用した授業に積極的に臨んでいる子どもたち



水道を容易に利用できるようになったため、子どもたちに適切な衛生習慣の習得を働きかけることができます。

【落成式】



落成式は、岡村様、三浦様ご参列のもと盛大に執り行われました。



落成式に参列している子どもや保護者、プロジェクト関係者たち

【記念プレート】



校舎壁面には、しょうがっこうをおくる会様からのご支援に対する感謝の意を表す記念プレートが設置されました。
《プレート訳》シンドゥリ郡、カマラマイ市、シュリー・カリカ学校の新校舎は、しょうがっこうをおくる会様のご支援のもと、プラン・ジャパン、プラン・ネパールの協力を得て建設されました。